

## 山田町支援活動報告書

平成 23 年 5 月 5 日  
社団法人沼津青年会議所  
副理事長 遠藤啓太

実施日： 平成 23 年 4 月 30 日（土）～ 5 月 3 日（火）  
実施場所： 岩手県下閉伊郡山田町

4 月 30 日（土）

参加者：社団法人沼津青年会議所

副理事長 伊東亨、副理事長 遠藤啓太（09 国際協力関係委員会 総括幹事）  
会員開発室室長 宮内保昌、特別会員 土屋雅一（09 国際協力関係委員会）  
宮内良和（沼津 J C 宮内保昌兄）

### 実施内容 1：BS フジ取材

下記番組の窓口として、山田町町長との取材・撮影調整を行いました。

山田町役場 取材窓口は 災害対策本部 白土靖行様。16：15～16：45の間、山田町町長との取材撮影を行いました。取材の中で、現状必要な支援は何か、という問いに対し、今までの生活復帰まで必要とされる最低限の支援物資の需要より、仮設住宅の設置が進んでいることから、個々のニーズに応えるために義捐金での支援が必要であるという発言がございました。また一方で、仮設住宅を設置して希望者を募っても、場所によって希望者がいないということもあるとの事です。これは、海辺に暮らしていた方が、海の見えない山側での居住に対して抵抗を示していることなどが原因となっています。

これからの山田町のビジョンを住民に示していくことも大切だとおっしゃっていました。

番組名：BS フジ「社長密着 24 時」

30 分特別枠震災復興支援スペシャルとして、番組でも取り上げている支援活動「メッセージエイド」(<http://messageaid.jp/>)と共に震災復興の為に支援を続ける企業の取り組みを番組中で紹介。今回は 5 月 8 日（日）25 時放送予定の回の取材で、大阪家庭薬協会の理事、摩耶堂製薬がメッセージエイドを通じて支援活動を続けることを放送予定。

取材目的：

被災地において求めているもの、集まるものの格差がある。現状をしっかりと伝えてることを目的としています。

質問内容：

- ・被災地として山田町が置かれた環境について
- ・刻々と必要とされるものが変わる中、今、必要な支援は何なのか？
- ・今回紹介する摩耶堂製薬に協力できる事が有るだろうかという点

今回出演の摩耶堂製薬社長は、薬剤師でもある藤井参議院議員と共に、薬事法がからむ上での支援活動において何が出来るのかを調整確認などをされています。

## 実施内容2：サロン実施に関する打ち合わせ

ニーズ調査において被災者の方の本音が聞き出せていない現状から、お茶会等サロン形式の方法をとり被災された方々が集まるコミュニティを作り、そこでニーズを聞き出す方法を山田町社会福祉協議会 佐々木紀子氏より提案を受け、BRAとして何ができるかについて打ち合わせを行った。

## 実施内容3：5月2日実施予定の炊き出し場所の確認

町役場健康福祉課にて確認をするも、担当者がいないため、明日(1日)午前中に再度確認することになりました。

5月1日(日)

参加者：社団法人沼津青年会議所

副理事長 伊東亨、

副理事長 遠藤啓太(09 国際協力関係委員会 総括幹事)

会員開発室室長 宮内保昌

特別会員 土屋雅一(09 国際協力関係委員会)

社団法人富士五湖青年会議所

理事長 渡辺篤司(09 国際協力関係委員会 副委員長)

副理事長 大谷和伸(09 国際協力関係委員会)

社団法人今治青年会議所 近藤吉朗(10 国際ネットワーク委員会 副委員長)

宮内良和(沼津JC 宮内保昌兄)

## 実施内容1：5月2日実施予定の炊き出し場所の確認

10:00頃健康福祉課を訪ねたが担当者不在のため、確認できませんでした。

午後に着電があり、山田南小学校での炊き出しが決定しました。その後、設置場所等詳細は、山田南小学校オバラさんと調整をしました。

## 実施内容2：瓦礫等撤去作業

サロン実施を試みましたが、社会福祉協議会佐々木紀子氏不在のため打ち合わせができなかったため、午後よりボランティアセンターへ登録し瓦礫撤去作業を行いました。内容は田畑並びに家宅跡にある瓦礫の撤去作業。土地も瓦礫も個人所有物なので重機作業ができないため、指定された区域内は手作業となるため。重機作業ができる場所までの瓦礫移動・分別を行いました。

夕方佐々木紀子氏とお話しする機会があり、翌日の炊き出し場所にてサロン実施を行うこととなりました。

山田町災害ボランティアセンター

場所：B & G 山田海洋センター 山田町船越9 地割10-1

電話：080-5949-7867、080-2299-1218



ボランティアセンター

ボランティアは8：30に受付が開始。ニーズが入り次第作業が割り当てられる



写真を撮らない等の注意事項



ヘルメット、長靴、軍手等作業に必要な用具は貸出をしています

5月2日(月)

参加者：社団法人沼津青年会議所

副理事長 遠藤啓太(09 国際協力関係委員会 総括幹事)

会員開発室室長 宮内保昌、長島玲美、園田勝

特別会員 土屋雅一(09 国際協力関係委員会)

特別会員 原田浩(BRA理事、10 国際ネットワーク委員会副委員長)

社団法人今治青年会議所 近藤吉朗(10 国際ネットワーク委員会 副委員長)

宮内良和(沼津JC宮内保昌兄)

実施内容：炊き出し

朝8：30に前日指定のあった、山田南小学校へ到着しました。グラウンドを囲みさくら幼稚園と武徳殿(武道場)が併設しており、いずれも避難所として使用されておりました。

当日は晴れではあったものの、朝からグラウンドの砂埃が舞うほどの強風。さくら幼稚園の園長のご好意で同幼稚園前に設置された臨時調理場を使用させて頂く事ができました。



お借りしたさくら幼稚園前調理場

炊き出し内容は、おでん（玉子、黒はんぺん、野菜湯）、うどんをそれぞれ300食提供させていただきました。材料は前日に沼津から盛岡に運びいれホテルの冷蔵庫にて保管させていただきましたが、大根は傷んでしまい提供することができませんでした。

強風のため、観音開きのバン後部を使用し炊き出し提供場所と致しました。



バン後部を提供場所に使用



バン横にテーブル設置

長テーブルとパイプイスを用意し、その場で食事ができるように致しました。ここで食後にお茶とお菓子を提供し、現地の方同士、また社会福祉協議会、ボランティアが話せる場所を作ることによって自然な会話生まれ、今実は必要とされている事、本当に必要なもの等一步踏み込んだニーズ調査をすることができます。社会福祉協議会佐々木紀子氏談「ボランティアセンターを知らない方にPRすることもできましたし、様々なニーズを得ることができました。この方法は続けて行きたい思います。」



食事場所を設けることによってコミュニケーションが生まれニーズを伺うが出来ます



子供用おもちゃや女性用品等  
支援物資も配布しました



栗原沼津市長が視察中立ち寄り  
て下さいました

5月3日(火)

参加者：社団法人沼津青年会議所

副理事長 遠藤啓太(09 国際協力関係委員会 総括幹事)、園田勝、

特別会員 土屋雅一(09 国際協力関係委員会)

社団法人今治青年会議所 近藤吉朗(10 国際ネットワーク委員会 副委員長)

社団法人滝川青年会議所 4名

B R A 盛岡事務局 八重樫信也様、中村様

実施内容：サロン実施場所の探索とニーズ調査

午前中に佐々木紀子氏を交えて今後のサロン実施に関する打ち合わせを行いました。

サロン実施場所を大沢地区・船越地区・織笠地区にて探すこととなり、ボランティアセンターのチラシを配布すると共にニーズ調査をしながら実施しました。



ボラセン横B R A プレハブにて打ち合わせ



配布チラシ



調査3地区(大沢地区・織笠地区・船越地区)

私達が担当したのは船越地区。ニーズは下記の通り

- ・ 物資配給場所から遠いため1時間かけて歩いて行く事もできるが、持って帰ってこれない。(ひとり暮らしのお年寄り)
- ・ この地域では物資配給は過去に1回あったのみ。
- ・ 炊き出しは一度もきたことがない。
- ・ 食料の販売車両が毎日来るが、購入資金は潤沢にない。
- ・ 車が動かない。

- ・ 道路が傷んでおり、雨が降るたびに崩れていく。
- ・ どこから手をつけてよいか分からない(家の1階が浸水。他人の持ち物が多数流れ込んできている。)
- ・ 周りは避難所になってしまったので、話相手がいない。

サロン実施場所としては、現状では候補に挙がっていた公園などは津波の被害を受けており使用できない可能性が大きいという理由から、避難所において開催し近隣住民に声をかけて集まっていただく方法をとるべきと考えます。右写真は、WFP(世界食料計画)が寄贈したテントで、長崎地区にある都市公園に設置されており、商工会が6月1日を目処に仮設商店街を開設予定。この横のスペースはサロン実施場所の候補として挙げてはどうかと考えます。



## 所感

### ニーズ調査

外部から入ったボランティアがニーズ調査をするよりも、現地の方が行ったほうがよいのではと考えます。私達にとってはどんな小さなニーズでもお聞きしますといっても、頼む方としては「こんなことでも頼んでいいのか」という事もあるようです。そのような内容はやはり親しい間柄、地元の人同士の何気ない世間話の中から出てくるものであるという想定から、上記のようなサロンのようなコミュニティの場所で、社会福祉協議会あるいは地元ボランティアの方がニーズを聞くことが効果的だと考えます。方言の問題も解決できます。今回行ったニーズ調査において最も困ったのは方言です私達がニーズを聞いても方言でお話しされるため理解しづらい場面が多々ございました。

私たちにできるのは何気ない会話が生まれる空間を創出することで、それは現在炊き出しを行っている場所で行い、避難所で生活されている方だけでなく近隣の方に声をかけて集まって頂く事がよいと思います。

ニーズとしては当然個々に違うと思いますが、避難所生活をされている方、浸水したが家に住まれている方、浸水等の被害を受けず家に住まれている方、仮設住宅に住まれている方という区分で、さらに配給場所に近い方、遠い方という区分にニーズが分かると仮定できますので、支援のやり方もそれぞれの区分に分けて考えることが良いのではないのでしょうか。

### チラシについて

お手伝いを必要とされている方からボランティアセンターへ連絡を促すためのチラシであるが、多数集まっているボランティアの力を十分に活用するためには地元の方の力が必要であるという文言もあり、誤解を招きやすいと感じます。実際にチラシを配布している際にも疑問の声もお聞きしました。